

広島県集落対策に関する検討会議（第3回）

日 時 令和5年10月4日（水）10：00～12：00

場 所 広島県庁北館2階 第2会議室

1. 開会

作野座長より開会挨拶。

出席：作野座長、浦田委員（オンライン）、材木委員、清水委員（オンライン）、早田委員、沼尾委員（オンライン）、山田委員

2. 議題

- (1) 中間整理（案）について 【資料1、2、3】
- (2) 今後の検討の進め方について 【資料4】

3. 意見交換

(1) 中間整理（案）について

○全体の構成と第1章_広島県における中山間地域の現状と検討課題

- 構成員 ・ 結局、何が課題なのかが不明確に思える。そのため、第2章の取組方針がどこから出てきたのか理解できなかった。
- 構成員 ・ 全体の構造が不明瞭で、全体が繋がらない。構成を変えることが困難であれば、見取り図のようなものがないと理解できないのではないか。
- 広島県 ・ 会議発足の時から、似た用語が色々使われているため、分かり難いところがあった。
- 構成員 ・ 事務局からの説明を受けて理解できた部分もある。ただ、対策としての選択肢の記載が、本編と資料編で離れていて分かりにくい。何が課題で結論なのか、選択肢なのか、対策一覧の中で誰がどのような対策をしたら良いのかが見えない。
- 広島県 ・ 全体構造の問題については、見取り図的に、考え方が整理されていくような流れが分かる資料を作りたいと考えている。
- 構成員 ・ 準備会でも伝えたが、住み続けたいと思っていいいのか、思っではいけないのか、地域に住んでいるものが悩まなくて済むような論理を、まず広島県の考え方として示した上でスタートして欲しい。
- 広島県 ・ 中山間地域があることにより人の営みが行われていることの持つ意義を改めて検討し直し、最終整理に向けて構成を検討させて頂く。
- 構成員 ・ 1章第6節検討課題に何を書くかが重要だと思っている。中山間地域への対策の中に集落対策が入ってくると思うが、中山間地域の課題を解決するための方法は、集落対策によるものもあれば、集落対策以外のものもあるだろう。そこが曖昧なまま検討課題の話に入ってしまったと思われる。
- 構成員 ・ 本編7ページに記載されている財政状況は、集落対策を考える上の前提条件として置くものなのか、むしろこの検討課題に答えていくために何が必要かということを考えていくものか、建付けや表現を修正する方法もあったのではないかと思った。
- 広島県 ・ 財政状況については、今後対策を考えていく中で、実行していくには必ず考慮すべき点であり、市町において財政費用の変化を推測しつつ、最も適した対策は何かを、自治体レベルで考えていかなければならない。

○第2章_今後の集落対策に係る取組方針の考え方

- 構成員 ・取組項目として記載されている中に、政策としてやることと、調査をすることが混在している。項目の整理が必要ではないか。
- 構成員 ・取組を県がどこまで準備をするのか、あるいはそれを受けて市町がどうするのか、地域の方々がこの流れに沿って自分達の地域をどう受けとめるのかなど、主体をどう整理するのが非常に大事である。
- ・県としての課題認識を整理した上で、市町や自治組織も含めて地域の側が主体的に考えていくための環境づくりについて規定することが大切だと感じた。
- ・他県では集落支援員や地域おこし協力隊を入れる体制などについて、県や市町が公的に資金や人の面でバックアップするような先行的な事例がある。
- ・本編 15 ページの③に DX の活用について文言を加えてもらった。この記載については、集落での居住継続を支える事項の情報整理について、国のデジタル田園都市国家構想交付金も取りながら、県として積極的に、地域で収集したデータをオープンデータ化し、地域での課題やニーズを考え分析出来るような、情報環境を整えることは、地域の活動を支えるバックアップとして可能性としてはあり得るのかなと思ったからである。
- 構成員 ・段階的な集落の維持の見通しが3つに分かれている部分において、せめて第3段階にならない、まだ集落に力が残っている状態で何をすべきかが提示していければいい。

○第3章_集落対策の推進に向けた留意事項

- 構成員 ・住民自治組織などが、他人事ではなく自分ごとという思いを持ち、また危機感も持って、住民自治組織を中心に活動を進めていく必要がある。
- 構成員 ・住民自治組織が持続的に活動していくには、どのようなやり方があるのか。住民が合意形成を図る場面でのサポート機能なのか、実務を担う段階での事務処理の代行なのか、色々な場面でそれぞれに必要な役割があり、それぞれに合った人材の募集の仕方や人材活用の手段が必要だろう。
- ・総務省が色々な人材をサポートする制度を出している。その活用を含め、県として支援する体制を作ることが重要ではないかと思う。もう少し個別にイメージできるよう具体的に書き込み、予算化に繋げて欲しい。
- 構成員 ・12の取組項目と早期着手の項目がどう関係するのかが理解できない。
- ・考え方として、12の項目をどの主体がやるかはこれから検討することになると思うが、実態として、自治組織については早期に着手しないといけないのであれば、この部分を特出しして早期に着手すると示すことは必要なのかもしれない。ただ、もちろん、全体の整合はとる必要はある。
- 座長 ・住民自治組織は非常に多様であり、組織に特化した取り出し方をするっていうのは、ものすごくあやうい。
- ・今まで自分たちでやっていくというプロセスを踏んで来たが、それが弱体化してきた時に、さらに上書きで住民自治組織がやるかって言われると、出来ない。もうやれない、やりにくい、どうしようっていうところが今回のスタートラインである。
- ・第1段階、第2段階はサポートしながらやっていけるならやるとして、第3段階でもう無理だっていうところの議論をしていかざるを得ない。

○第4章_最終整理に向けた検討項目とスケジュール

- 構成員 ・他の計画にはあるかもしれないが、学校や教育の兼ね合いがこの計画のなかにはない。人口減少の一つの要因の中で教育が受けられない環境だから転出してしまう部分もある。この計画の中には、文言を入れないのか。
- 広島県 ・地域の課題として、小・中の教育、県レベルでは高等学校の統廃合の問題がクローズアップされるが、振興計画そのものは統廃合の領域まではこれまで触れたことがない。難しい領域かなという認識でいる。それ以外のところは、第Ⅱ期振興計画の中でカバーできるのではないかと考えている。

○中間整理についてのまとめ

- 座長 ・対策を実施する主体の問題をどう整理するかが非常に重要で、主体が見えにくいなど立ち位置によって表現が違うのが、読みにくい原因になっている。
- ・気になるのは、「住民が話し合っ」てとか「住民が判断して」といった記述がみられるが、私の経験では、もう住民自ら判断することは難しいと感じている。特にマイナスのことについての判断はしない状況も見られるため、結果的にいろんな問題が先送りになっている。
- ・住民に動いてもらうのは、極めて難しい段階に入っている。やれるところはもちろんやるが、やれないところに対してどう手を差し伸べるかを考えてくことが大事と考える。
- ・集落の置かれた状況の段階に応じた対応について、委員の皆様から、評価の規準、基準を出さないと難しいと重ねて言われた。これに対し事務局は、地域の置かれた状況、或いはそれ自体も変化していくがゆえに出していくのは、特に基準は難しいのではないかと見解を出した。このあたりをどう整理していくかが非常に大きい課題である。
- ・この集落対策の検討としては、この部分が大きな売りでもあり、踏み込んで発言すること自体が、最大のポイントである。そこを丁寧に整理し、批判も覚悟の上で、全国に先駆けて声を上げることが大事である。

(2) 今後の検討の進め方について

- 構成員 ・中間整理はこの段階で公表するのか。
- 広島県 ・会議資料としてHPに掲載する。また、今月の県議会の常任委員会に中間整理として提出する。
- 広島県 ・皆様から頂いた意見について、来週中には整理をしたいと考えている。
- 座長 ・非常にタイトで申し訳ないがよろしくお願ひしたい。
- ・中間整理としてより分かりやすくまとめ、不足の部分は最終的な取りまとめで、分かりやすくまとめさせて頂くということで整理をさせてほしい。

以上